

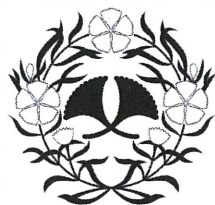
平成28年度

一般社団法人 埼玉県校外教育協会委嘱

校外教育 研究紀要

研究主題

地域に根ざした豊かな文化伝承的活動の推進による
生き生きとした児童の育成



秩父市立秩父第一小学校

埼玉県秩父市上宮地町36番11号

1 はじめに

秩父市は、埼玉県の北西部にあり、面積は、埼玉県全体の約15%を占めている。市域の87%が森林で、ほとんどは秩父多摩甲斐国立公園や武甲・西秩父などの県立自然公園の区域に指定されており、自然環境に恵まれた地域である。また、市の中央を流れる荒川で東西に区分され、東部の平坦部分は市街地を形成し、商店街、住宅地などが集中している。本校はこの東部に属し、開校143年の伝統があり、地域に根ざした学校である。全校児童165名の小規模校であるが、学区内には教育資源が多く、多様な教育活動を推進できる環境にあるといえる。また、地域の方々の学校への愛着も強い。

2 研究の概要

本校の学区内には、秩父神社がある。神社には、平成28年12月にユネスコ無形文化遺産に登録された「秩父祭の屋台行事と神楽」等、様々な伝統行事が今もなお、地域に伝えられている。その中で、児童は「秩父神社神楽」に触れ合う機会が少なく、大切な神楽文化を地域の人々を通じて伝承することもあまりなかった。そこで、本校の郷土芸能クラブ（4～6年生・15名）の活動時間に通年で練習している秩父屋台囃子や秩父音頭に加え、秩父神社神楽保存会の協力を得て、「秩父神社神楽」を習い、発表する機会を設けることとなった。これを地域の伝統文化伝承の場とするとともに、児童のコミュニケーション能力や表現力を育成する場と考えた。また、各学年等で校外で体験や学習する機会も含め、校外教育の推進を図った。

3 具体的な実践

(1) 郷土芸能クラブでの取組

①秩父屋台囃子および秩父音頭

秩父屋台囃子と秩父音頭は、毎年、運動会のプログラムにも組み込まれ、児童の発表の場を設定している。このお囃子等を地区の元太鼓長の指導の下、クラブ活動で練習に励んでいる。また、児童の中には、夏と冬にある祭りで屋台囃子を演奏し、祭りに参加している子もいる。



②秩父神社神楽

秩父神社神楽保存会の協力を得て、運動会後のクラブ活動から練習を始めた。1月2日の初神楽に向けて12月に入ると、業前に練習を3回行ったり、冬季休業前に神楽殿での練習を1回行ったりもした。神楽保存会の方には、毎回4、5名の方に協力をいただき、その都度、細かく指導していただいた。



【練習の様子】



【1月2日 初神楽の様子】



(2) 各学年での実践

① 1・2年生「生活科校外学習」

・毎年10月下旬に、隔年で秩父ミュージックパークと長瀬宝登山へ生活科校外学習として出かける。生活科での「秋を探そう」が主な目的であるが、それとともに路線バスや電車に乗ったりする体験とともに、公共の場でのマナーを学ばせたりすることもできた。



② 3年生「地いきの古いものさがし」(体験、見学)

・社会科の「昔の暮らし」の単元で荒川歴史民俗資料館を訪れ、昔の暮らし(主に農作業で使用するもの)の道具を見たり、木挽きや薬研等の体験を行ったりすることで、今の暮らしと昔の暮らしとは、どんな違い等があるかを考えさせることができた。



③ 4年生「埼玉県の産業～秩父銘仙～」

・社会科での地域に伝わる伝統産業についての学習で、秩父銘仙等の反物を織っている学区内の機屋(新啓織物)さんを訪れている。秩父銘仙に代表される解(ほぐ)し織りは、経糸に型染めをほどこす技法であるが、機械化が困難なため、今も職人の手により一つ一つ丹誠込めて染められ、昔ながらの半木製織機にて織られている。児童は、秩父地方に伝えられる昔ながらの伝統産業を知ることができた。



④ 5年生「秩父の祭りを知り、伝統を受け継ごう」

・総合的な学習の時間で、『秩父祭について調べよう』の単元を設定し、学区内にある「秩父まつり会館」に見学に行き、一人一人の課題について詳しく調べるようにした。



⑤ 6年生「大地のつくり～地層見学・化石掘り～」

- ・理科での「大地のつくり」の単元で、小鹿野町にある「ようばけ」を見学したり、近くにある川原で化石を採ったりする。外部指導者として県立自然の博物館の職員を派遣してもらい説明等も実施した。



(3) その他の活動

① 県立特別支援学校との交流

- ・本校では、近くにある特別支援学校と行き来をしての交流活動を行っている。年度当初に、各学年ごとに話し合いを持ち、計画を立てて交流をしている。



② 全校縦割り遠足

- ・異学年による縦割り班を利用し、5月下旬頃に羊山公園へ徒歩で出かける。縦割り班ごとに目的地で遊んだり、お弁当を食べたりして異学年間の交流を深めている。



③ 宮地屋台歌舞伎への取組

- ・12月2, 3日に行われる秩父祭では四町に屋台があり、4年に1度張り出しを作り歌舞伎を上演することとなっている。28年度は、学区内の宮地屋台が当番町として、地区の育成会が募集した本校の児童10名が「白浪五人男」を上演した。



4 成果と課題

<成果>

- 児童は、外部指導者の方々に教えてもらうことで、地域の人々と交流を深めたり、自分の住んでいる地区を見直す機会を持つたりすることができた。また、今まで知らなかったこと等に興味や関心を高める子も見られるようになった。
- 1月2日に行われた秩父神社初神楽では、多くの観衆の前で、練習の成果を神楽殿でクラブ員全員が披露することができた。どの児童も自信をつけたり、またやってみたいという意欲を持つたりすることができた。

<課題>

- 児童が減少する中で、秩父神社神楽を始めとする伝統芸能等を受け継ぐ活動を総合的な学習の時間でのテーマとして設定し、全校児童が体験できるような設定も考えていきたい。